

障がい者と共にはたらく

—支援スキルの向上を目指して—

林 茂男さん

会社名：某民間教育サービス会社グループ内特例子会社

役職：管理部責任者

資格：産業カウンセラー、キャリアコンサルタント

障害者職業生活相談員



「障がい者スタッフが描いてくれた肖像画」

【受講のきっかけ】

かれこれ十数年前になりますが、私は当時民間教育部門に勤務しており、学習指導に加えて保護者や生徒達からの様々な相談を受ける業務にあたっていました。今思えば、指示的な対応が中心となっていたのか、表情に明るさが戻らず、うつむきがちに事務室を出て行く姿に、我ながら申し訳ない気持ちとどこかやりきれない思いでいたことを覚えています。自分自身に問題があるのか、また自分にできる他のアプローチはないものかなどと悩んでいる時に会ったのが「産業カウンセラー養成講座」でした。

講座で学んだ「受容・共感・自己一致」、そして「傾聴」は、頭で分かることと実際にできることとは大違いでした。自己と向き合ながら笑ったり泣いたり、講座で出会った仲間たちと共に過ごした時間は学びが多く、視野も広がり、自身の変化や成長を実感できる貴重な経験になりました。

【資格取得後の活動状況】

資格取得後は、講座メンバー有志で立ち上げた勉強会に月1回、十余年以上現在に至るまで参加させていただいています。勉強会ではお互いに切磋琢磨し、時には助け合い、メンバーの方々は私にとって、今やかけがえない存在です。

その後、本部営業、危機管理、お客様相談センターを経て、定年を期にグループ内企業で障がい者就労を行っている特例子会社へ転籍しました。障がい者（軽度から重度の知的疾患や、うつ・発達障害・統合失調等の精神疾患）の方々40人程の構成で、グループ内企業の事務補助や各事業所の清掃を行っている会社です。グループ内

認知度を含め、カウンセリングや各支援機関との連携も十分ではないと聞いていたこともあり、正直不安はありましたが、これまでの人脈を活用できること、何より産業カウンセラーとしての学びを生かせる機会であると考え、決断しました。

当初は、障がい者スタッフ各々の障害特性が理解できず、気が付くと「指示」や「決めつけ」が多くなってしまい、スタッフとの距離を縮めるのに苦労しましたが、これまでの学びを振り返り、丁寧な「傾聴」を心がけたことで、程よい距離感とスタッフに笑顔が見られるようになりました。

現在3年目になりますが、社内での理解も得られ、定期面談や各支援事業者との連携ができ、課題であった障がい者スタッフの定着とサポートスタッフの育成も進み、新たな事務所を開設することができました。

またこの間、様々な支援機関の方々にお世話になりましたが、産業カウンセラーの資格を持ちながら障がい者と社内及び外部支援機関との連携を図る職場適応援助者（ジョブコーチ）として活躍されている方々の存在を知ることができました。産業カウンセラーの役割は、健常者、障がい者にかかわらず、必要に応じて周辺環境をつなぐ存在であることを改めて理解できたと思います。応用範囲は広いなあ実感しています。

これを機に、私自身の支援スキルを更に向上させるために、次の目標として職場適応援助者としての学びにチャレンジしていくつもりです。

最後になりますが、私はこれからも産業カウンセラーとして、養成講座で学んだ基礎を忘れず、自身の準拠枠にとらわれることなく、職場で共に働く障がい者の方々に寄り添い、一緒に成長していきたいと思っています。